

■とき：令和8年1月27日(火)14時～15時



税理士法人 o・tax (TKC九州会・小川清春副会長) において、TKC会員事務所見学会が開催されました。当日は福岡国税局より小林竜也企画課長をはじめ3名、大牟田税務署から大橋功総務課長をはじめ2名、TKC九州会からは、山之内浩明会長、税理士法人 o・tax からは小川清春副会長(代表社員税理士)をはじめ、北川政嗣会員(代表社員税理士)、古賀美穂氏、森田勝也氏(監査担当者)、藤森万里子氏(巡回監査士)が出席しました。

1. 見学会開催の経緯

福岡国税局とTKC九州会は、毎年の局長表敬訪問において意見交換を重ねています。令和7年11月の訪問の際に、他国税局で実施されたTKC会員事務所見学会を紹介したところ、福岡国税局より開催の希望をいただき、今回の見学会が実現しました。

特に福岡国税局からは次の要望が寄せられました。

(1) ポールインボイスを含むデジタル化に積極的に取り組む事務所を見学したい

① ポールインボイス普及に向けたTKC会員事務所の具体的な実践内容

② 推進事務所としてのメリットや課題の把握

(2) 電子申告・電子納税の課題や工夫を知りたい

(3) 会員事務所がどのようにデジタル化を仕組み化しているか学びたい

これらを踏まえて、デジタル化推進に注力する税理士法人 o・tax において開催される運びとなりました。

2. 見学会の概要

(1) TKC会員事務所の取り組み紹介

冒頭、山之内会長よりTKC全国会の運動方針と「正しい会計帳簿」の重要性、税理士の役割に関して説明がありました。

続いて小川副会長からは、税理士の4大業務(税務・会計・保証・経営助言)と月次巡回監査を行う定義や、三現主義

(現地・現物・現人)とその必要性、TKCシステムの特徴について紹介がありました。

(2) 会員事務所と関与先企業のデジタル化への取り組みについて

はじめに、北川会員からは、デジタルシームレスの全体像と実現に向けた取り組み、TKCシステムで実現できるデジタル化、ペポルインボイス対応の三つのステップ、推進上の課題、導入メリットと導入後の課題について説明がありました。また、関与先企業へのペポルインボ

イス普及状況の紹介とともに、国への要望として「CM等による周知活動」や「税制上の優遇措置の検討」についても言及がありました。さらに、古賀氏からはTKCシステムを活用した推進事例が紹介され、実務に根ざした具体的な取り組みが、福岡国税局と大牟

田税務署の皆さまへ共有されました。

3. 福岡国税局との意見交換

意見交換では、電子納税やペポルインボイスの普及に関する課題を中心に、具体的な質問や要望が寄せられ、活発な議論が行われました。

主な質問や意見としては、①電子納税における納付責任の所在、②地方税の電子納税の手順、③デジタル化の普及促進策、④成功事例の共有や講演協力への期

待など——が挙げられました。

特に、福岡国税局からは「TKC会員はデジタル化に関する成功事例を多く持っている」との評価をいただき、「啓蒙・普及に向けて協力を得たい」との要望を寄せていただきました。また、ペポルインボイスや電子納税の分野において、TKCが先行している点も高く評価されました。

さらに、ペポルインボイスやデジタル化の成功体験を持つ税理士による法人会等での講演協力についても依頼があり、TKC会員事務所への期待の高さを感じられる意見交換となりました。

4. 最後に

今回の見学会を通じて、デジタルシームレスの実現に向け、福岡国税局・大牟田税務署とTKC九州会の連携強化がこれまで以上に重要であることが確認されました。また、成功事例を共有し横展開していくことの重要性も再認識されました。

今後、さらに前向きな連携が期待される有意義な事務所見学会となりました。

(TKC九州会事務局長 藤原和也)



事務所見学、意見交換の様子